

## 1. セクション 1: 物質/混合物の名称および企業の名称

### 1.1 製品識別名

製品名	M-COAT D
化学物質名	混合物。
CAS 番号	混合物。
EINECS 番号	混合物。
REACH 登録番号	割り当てられていない。

### 1.2 当該物質または混合物の記載されている重要用途および 指導対象の用途

記載されている用途	接着剤。
~ に対して助言された用途	専門家向けのみ。

### 1.3 安全性データシート供給者の詳細

会社情報	VISHAY MEASUREMENTS GROUP UK LTD Stroudley Road Basingstoke Hampshire イギリス RG24 8FW
電話	+44 (0) 1256 462131
F a x	+44 (0) 1256 471441
E メール(担当者)	mm.uk@vishaypg.com

### 1.4 緊急電話番号

(00-1) 703-527-3887  
CHEMTREC

## 2. セクション 2: 危険有害性の要約

### 2.1 物質または混合物の分類

#### 2.1.1 欧州 CLP 規則 ( No.1272/2008 )

引火性液体 区分 2; H225  
呼吸器有害性 区分 1; H304  
皮膚腐食性 区分 2; H315  
眼刺激性物質 区分 2; H319  
特定臓器毒性(単回暴露) 区分 3; H336  
生殖毒性 区分 2; H361d  
特定臓器毒性(反復暴露) 区分 2; H373

### 2.2 表示要素

製品名 欧州 CLP 規則 ( No.1272/2008 ) によれば  
M-COAT D

危険性を表す絵文字



注意喚起語

危険

次を含有する:

トルエン と Ethyl methyl ketone

危険有害性情報

H225: 引火性の高い液体および蒸気。

H304: 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ。

H315: 膚刺激性。

H319: 強い眼刺激。

H336: 眠気及びめまいのおそれ。

H361d: 胎児に害を及ぼす疑いあり。

H373: 長期にわたる、または反復暴露による臓器の障害のおそれ。

危険有害性情報

P210: 熱、高温の物、火花、裸火などの着火源から遠ざけること。禁煙。

P260: 蒸気を吸入してはならない。

P280: 保護手袋/保護服/保護眼鏡/保護面を着用する。

P305 + P351 + P338: 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

P301 + P310: 飲み込んだ場合: 直ちに中毒センターまたは医師に連絡すること。

P331: 無理に吐かせない。

2.3 他の危険有害性

なし。

### 3. セクション 3: 組成/成分情報

3.1 物質 該当なし。

3.2 混合物

EC 分類 欧州CLP規則 (No.1272/2008)

物質の化学的特定名	%W/W	CAS 番号	EC 番号	REACH登録番号	危険有害性情報
トルエン	< 50	108-88-3	203-625-9	割り当てられていない。	引火性液体 区分2; H225 呼吸器有害性 区分1; H304 皮膚腐食性 区分2; H315 特定臓器毒性(単回暴露) 区分3; H336 生殖毒性 区分2; H361 特定臓器毒性(反復暴露) 区分2; H373
Acrylic ester resin	25 - 30	-	-	割り当てられていない。	分類されていない。
Titanium dioxide	15 - 20	13463-67-7	236-675-5	割り当てられていない。	分類されていない。
Ethyl methyl ketone	< 20	78-93-3	201-159-0	割り当てられていない。	引火性液体 区分2; H225 眼刺激性物質 区分2; H319 特定臓器毒性(単回暴露) 区分3; H336 EUH066

H225: 引火性の高い液体および蒸気。 H304: 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ。 H315: 膚刺激性。 H319: 強い眼刺激。 H336: 眠気及びめまいのおそれ。 H361d: 胎児に害を及ぼす疑いあり。 H373: 長期にわたる、または反復暴露による臓器の障害のおそれ。 EUH066: 反復暴露により皮膚乾燥やひび割れのおそれ。

#### 4. セクション 4: 応急処置



##### 4.1 応急処置の説明

###### 最初の救助者自身の保護

蒸気を吸入してはならない。適切な保護衣を着用する。高濃度の物質に暴露する恐れがある場合、適切な呼吸用保護具を着用する。マウス・ツウ・マウスの人工呼吸をしてはならない。

###### 吸入

吸い込んだ場合: 空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすいよう安静にすること。気道を開いた状態に維持する。襟、ネクタイ、ベルト、ウエストバンド等の衣類の締め付けをゆるめる。患者が息をしていない場合や、医師が立ち会った場合に限り人工呼吸を施す。体調に異変があった場合は、中毒センター/医師に連絡すること。暴露または暴露の懸念がある場合: 医師の手当て/診断を受けること。

###### 皮膚接触

皮膚に触れた場合: 水でよく手を洗うこと。汚染された衣類は脱ぎ、再使用前に洗濯すること。皮膚刺激が生じた場合、医師の診断/手当てを受けること。暴露または暴露の懸念がある場合: 医師の手当て/診断を受けること。

###### 目の接触

眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着

摂取	用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。目の刺激が続く場合: 医師の診断/手当てを受けること。
4.2 最も重要な症状および作用 (急性および遅発性)	飲みこんだ場合: 直ちに中毒センター/医師に連絡すること。無理に吐かせない。自然に嘔吐する場合は、頭部を腰の高さよりも低く保ち、肺に吸引しないようにしてください。牛乳またはアルコールを飲ませないでください。直ちに中毒センターまたは医師に連絡すること。
4.3 医師の手当てと特別な処置が直ちに必要な状態	<p>皮膚刺激性。眼の刺激をもたらす。飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ。胎児に害を及ぼす疑いあり。昏睡およびめまいを起こすおそれ。長期にわたる、または反復暴露による臓器の障害のおそれ。</p> <p>症状によって処置する。</p> <p>飲み込んだ場合: 中毒センター、医師、または、に連絡すること。胃の洗浄をするためには: 内気道の調整及び/または食道内視鏡が必要である。活性炭と水のスラリーを飲ませること (240mL 水 / 30 g 活性炭)。</p>

## 5. セクション 5: 火災時の措置

5.1 消火剤	周辺の火災に適切な。望ましくは、泡、炭酸ガス、または粉末消火器で消火する。
適切な消火剤	ウォータージェットを使用しない。直接水を噴射すると火災が広がる可能性があります。
不適切な消火剤	引火性の高い液体および蒸気。燃焼または熱分解により、有毒な刺激性蒸気が発生する。一酸化炭素、二酸化炭素、強く鼻を刺す煙。と窒素酸化物。蒸気は空気より重く、着火源および逆火源までかなりの距離を移動することがあります。
5.2 当該物質または混合物に起因する特別な危険性	消火作業員は自給式呼吸器を含む完全な保護服を着用すること。フュームを吸入してはならない。火災の場合、容器に水を噴霧して冷却する。消火活動による流出物を下水溝や河川を流入させないでください。
5.3 消防士へのアドバイス	

## 6. セクション 6: 漏出時の措置

6.1 人体に対する予防措置、保護具および緊急時措置	危険がなければ漏出を遮断する。安全に対処できるならば全ての着火源を取り除く。適切な換気を確認する。蒸気を吸入してはならない。皮膚、眼および衣服との接触を避けること。適切な呼吸防護具を装着してください。必要な個人用保護具を使用する。次の項を参照: 8。
6.2 環境的予防措置	環境中への放出を避ける。排水路、下水道または水路に入らないようにする。水路へ流出したり、うっかり排出した場合、環境局または適切な規制機関に通知しなければならない。
6.3 封じ込めと清掃のための方法および資材	流出物をとり除く間、(呼吸装置を含む)適切な保護具を着用する。引火性漏洩

物を回収するときには、無火花機器を使用すること。流出物を閉じこめる。流出物を砂、土または適切な吸収剤に吸収させる。おが屑その他の可燃性吸収材に吸収させないこと。廃棄用の容器に移す。区域を換気し、物質の回収が終わったら漏洩場所を洗浄してください。この素材と容器は、危険廃棄物として廃棄すること。

## 6.4 他のセクションの参照先

次の項を参照: 8, 13

## 7. セクション 7: 取扱いおよび保管上の注意

## 7.1 安全な取り扱いのための注意事項

適切な換気を確保する。蒸気を吸入してはならない。換気が不十分な場合、適切な呼吸用保護具を着用する。必要な個人用保護具を使用する。次の項を参照: 8. 皮膚、眼および衣服との接触を避けること。本製品を取り扱っているときに、飲食、喫煙を行なってはならない。熱、高温の物、火花、裸火などの着火源から遠ざけること。禁煙。静電気に対する予防措置を講ずる。火花が発生しない工具と防爆用の電気器具を使用する。

## 7.2 安全な貯蔵のための条件 (不適合条件を含む)

容器および受器を接地し固定する。換気の良い (乾燥した) 冷所/低温の場所に貯蔵すること。容器を閉じておくこと。火、火花および高温のものから離して保管する - 禁煙。保管液体上の蒸気空間は、不活性ガスでシク汲っていない限り可燃性・爆発性をもつことがあります。開封された容器は、再度注意深く封をし、立てたまま保存してください。

保管温度

...°C 以下の温度で保管する: 27

保管期間

普通の状態安定。

混触危険物質

次の物との接触を避ける: 酸化剤類。

## 7.3 具体的最終用途

接着剤。

## 8. セクション 8: 暴露防止及び保護措置

## 8.1 管理指標

## 8.1.1 職業暴露限度

物質	CAS 番号	長期暴露限界(8時間 TWA ppm)	長期暴露限界(8時間 TWA mg/m3)	短時間暴露限界 (ppm)	短時間暴露限界 (mg/m3)	参照
トルエン	108-88-3	20	-	-	-	JSOH
Ethyl methyl ketone	78-93-3	200	-	-	-	JSOH

参照 許容濃度等の勧告 (2011 年度); 産衛誌 53 巻, 2011 - 日本産業衛生学会

## 8.1.2 生物学的限界値

確立されていない。

## 8.1.3 PNEC および DNEL

確立されていない。

## 8.2 暴露管理

## 8.2.1 適切な工学的管理

適切な換気を確保する。または適切な封じ込めを行うこと。職業暴露限度の規定に基づいて、空中濃度を管理しなければならない。無火花換気装置、承認済み防爆装置、および安全に設計された電気システムを使用すること。作業場所の近くに洗眼設備と安全シャワーを確保すること。

## 8.2.2 個人用保護具 (PPE) などの個人保護措置

化学物質取り扱いのための一般的な衛生手段が適用できる。皮膚、眼および衣服との接触を避けること。蒸気を吸入してはならない。休憩前及び作業後には手を洗うこと。作業着は分けて保管すること。汚染された衣服は徹底的に洗濯する。作業場所では飲食、喫煙を行なってはならない。

## 目/顔面の保護



液体の飛沫から保護するため保護メガネを着用すること。側板付き保護メガネ (EN166) を着用すること。

## 皮膚の保護



手の保護: 不浸透性手袋を着用すること。手袋素材の浸透時間: 手袋メーカーの情報を参照。推奨: ネオプレン。

体の保護: 長靴、白衣、前鞆またはつなぎ服を含む不浸透性の防護衣を適宜着用して、皮膚に接触しないようにしてください。静電気防止服および靴を着用してください。

## 呼吸器の保護



換気が不十分な場合、適切な呼吸用保護具を着用する。開放系: 適切な呼吸用保護具を着用する。A型フィルターの付いた適切なマスク(EN14387またはEN405)が適すると思われる。

## 熱の危険性

なし。

## 8.2.3 環境暴露コントロール

環境に排出しないようにする。

## 9. セクション 9: 物理的および化学的性質

## 9.1 基本的な物理化学的特性についての情報

外観	白色, 液体。
におい	芳香性の。
臭いの閾値	確立されていない。
pH	確立されていない。
融点/凝固点	確立されていない。
初留点と沸騰範囲	100 °C
引火点	-1 °C [クロ-ズドカップ]
蒸発速度	1.9 (BuAc=1)

**EC規則1907/2006 (REACH) 及び1272/2008 (CLP) & 2015/830 によれば**

燃焼性 (固体、ガス)	該当なし。: 液体。
上限/下限可燃性または爆発限界	爆発限界下限値(%v/v): 1.6 爆発限界上限値(%v/v): 7.0
蒸気圧	0.49 mmHg @ 20°C
蒸気密度	3.8 (航蟻 ir = 1)
相対密度	< 1 (水 = 1)
溶解度	水に溶解。
分配係数: n-オクタノール/水	確立されていない。
自然発火温度	確立されていない。
分解温度	確立されていない。
粘度	確立されていない。
爆発性	非爆発性。
酸化性	非酸化性。

9.2 その他の情報 揮発性有機化合物の含有量: 650 g/l

**10. セクション 10: 安定性および反応性**

10.1 反応性	普通の状態安定。
10.2 化学的安定性	普通の状態安定。
10.3 危険な反応の可能性	引火性の高い液体および蒸気。蒸気は空気より重く、着火源および逆火源までかなりの距離を移動することがあります。
10.4 避けるべき条件	熱、高温の物、火花、裸火などの着火源から遠ざけること。禁煙。湿気を遮断する。
10.5 混触危険物質	次の物との接触を避ける: 酸化剤類。
10.6 危険有害性分解生成物	火災の時分解されて、有毒な煙を発生することがある。一酸化炭素、二酸化炭素、強く鼻を刺す煙。と窒素酸化物。

**11. セクション 11: 有害性情報**

11.1 毒性に関する情報	
急性毒性	
摂取	これまでに得られているデータから、この分類基準には該当しない。 急性毒性推定混合計算: > 2000 mg/kg 体重/日
吸入	これまでに得られているデータから、この分類基準には該当しない。 急性毒性推定混合計算: > 20 mg/l
皮膚接触	これまでに得られているデータから、この分類基準には該当しない。 急性毒性推定混合計算: > 2000 mg/kg 体重/日
皮膚腐食性/刺激性	皮膚腐食性 区分 2: 膚刺激性。
眼に対する重篤な損傷/眼刺激性	眼刺激性物質 区分 2: 重大な目への刺激を引き起こす。



<p>呼吸器感作性又は皮膚感作性</p> <p>生殖細胞変異原性</p> <p>発がん性</p> <p>生殖毒性</p> <p>特定標的臓器への毒性 (単回暴露)</p> <p>特定標的臓器への毒性 (反復暴露)</p> <p>吸引性呼吸器有害性</p> <p>11.2 その他の情報</p>	<p>これまでに得られているデータから、この分類基準には該当しない。</p> <p>これまでに得られているデータから、この分類基準には該当しない。</p> <p>これまでに得られているデータから、この分類基準には該当しない。</p> <p>生殖毒性 区分2: 胎児に害を及ぼす疑いあり。</p> <p>特定臓器毒性(単回暴露) 区分3: 昏睡およびめまいを起こすおそれ。</p> <p>特定臓器毒性(反復暴露) 区分2: 長期にわたる、または反復暴露による臓器の障害のおそれ。</p> <p>呼吸器有害性 区分1: 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ。</p> <p>なし。</p>
--	--

## 12. セクション 12: 環境影響情報

<p>12.1 毒性</p> <p>12.2 残留性および分解性</p> <p>12.3 生物蓄積性</p> <p>12.4 土壌中の移動度</p> <p>12.5 PBT および vPvB 評価の結果</p> <p>12.6 その他の有害な作用</p>	<p>これまでに得られているデータから、この分類基準には該当しない。</p> <p>推定 LC50 (96 時間) &gt; 100 mg/l (魚類)</p> <p>混合物全体としてのデータはありません。</p> <p>この製品は生物濃縮の可能性がない。</p> <p>この物質は土壌中で移動性が高いと予想される。(水に溶解。)</p> <p>PBT または vPvB に分類されない</p> <p>知られていない。</p>
---	---

## 13. セクション 13: 廃棄上の注意

<p>13.1 廃棄物処理法</p> <p>13.2 追加情報</p>	<p>非希釈、非中和の状態の下水に排出しないこと。この素材と容器は、危険廃棄物として廃棄すること。本物質の容器が空の場合、製品の残留物が残っていると有害であることがあります。</p> <p>内容物を国、都道府県、市町村の法規に従って廃棄する。</p>
-------------------------------------	---

## 14. セクション 14: 輸送上の注意

<p>14.1 国連番号</p> <p>14.2 UN 適切な船積み名</p> <p>14.3 輸送危険分類</p> <p>14.4 輸送危険分類</p> <p>14.5 環境に対する危険</p> <p>14.6 使用者に対する特別な注意事項</p> <p>14.7 MARPOL 73/78 Annex II および IBC コードに準拠したバルク輸送</p> <p>14.8 追加情報</p>	<p>ADR/RID / IMDG / IATA/ICAO</p> <p>1993</p> <p>FLAMMABLE LIQUID, N.O.S (トルエン と Ethyl methyl ketone)</p> <p>3</p> <p>II</p> <p>海洋汚染物質として分類されていない。/ 環境的に有害な物質</p> <p>次の項を参照: 2</p> <p>該当なし。</p> <p>なし。</p>
--	--



## 15. セクション 15: 適用法令

### 15.1 特に当該物質または混合物に関する安全性、健康および環境についての規制/法律

#### 15.1.1 EU規制

高懸念物質 (SVHCs)

なし。

専門家向けのみ。

使用の承認および/または制限

REACH: ある種の危険な物質、調剤及び成形品の製造、上市及び使用の附属書 XVII 制限. トルエン: エントリ番号: 48.

#### 15.1.2 国の規制

Wassergefahrdungsklasse(ドイツ)

水質危険クラス : 2

#### 15.2 化学物質安全性評価

資料なし。

## 16. セクション 16: その他の情報

以下の項には改訂または新しい内容が含まれる: 1-16.

参考文献: 既存の安全データシート(SDS), 調和した分類トルエン (CAS 番号 108-88-3) と Ethyl methyl ketone (CAS 番号 78-93-3), と 既存の ECHA 登録トルエン (CAS 番号 108-88-3), Titanium Dioxide (CAS 番号 13463-67-7) と Ethyl methyl ketone (CAS 番号 78-93-3).

物質または混合物の分類 欧州CLP規則 (No.1272/2008) によれば	分類手順
引火性液体 区分 2; H225	引火点 [クロ-ズド カップ] テスト結果/ 沸点(°C)
呼吸器有害性 区分 1; H304	推定 粘度
皮膚腐食性 区分 2; H315	閾値計算
眼刺激性物質 区分 2; H319	閾値計算
特定臓器毒性(単回暴露) 区分 3; H336	閾値計算
生殖毒性 区分 2; H361d	閾値計算
特定臓器毒性(反復暴露) 区分 2; H373	閾値計算

### 注釈

LTEL	長期暴露限界
STEL	短時間暴露限界
DNEL	求められた無影響量
PNEC	推定無影響濃度
PBT	PBT: 難分解性、生物蓄積性、毒性
vPvB	v P v T: 高難分解性、高毒性

研修アドバイス: 検討事項は、より高度なレベルの予防が必要になるかどうか決定するため、作業手順に関わることや将来的な被爆の程度に影響を及ぼします。

## 免責事項

記載の情報もしくは他の方法で提供された情報は最善の知見に基づき、誠意を持って提供しております。使用者は、これを参考として自らの責任において個々の取り扱い等の実態に応じ、適切なる措置をお取り願います。Vishay Precision Group はいかなる用途に対しても製品の適合性に関して保証するものではありません。法による場合を除き、暗黙の保証や条件 ( 法的なあるいはそうでない ) はございません。Vishay Precision Group は、この情報に起因する損失または損害の責任を負うものではありません ( 欠陥製品が原因で死亡もしくは負傷し、そのことが証明された場合を除き )。特許、著作権および意匠のもと自由な使用权があるということではありません。

## 拡張安全性データシート(eSDS) の付録

利用可能な情報なし。